



並木中等story

令和4年6月10日号

信念に基づいた行動

今日も梶田叡一先生の著書『内面性の心理学』（大日本図書）の記述を紹介します。少し難しいことを書きます。著書の中により良い生き方について書かれた記述があります。良い生き方をするために、私たちが初めに行うべきことは、“人間として望ましい生き方”に気づくことだそうです。そのために、自分自身が置かれている環境や状況を見つめ、それとの関係において自分自身の現実の在り方（どのように生きているか）を吟味検討し、それを足場に他の人たちの在り方（生き様、生きている様子）にも目を向けます。そのような過程を通じて自分についても他人についても当てはまる人間としての望ましい在り方を考えます。そして、それを一つの信念として育て、ものの考え方や行動の仕方、生活の仕方すべてがその信念に基づいて行われるようにしていく。それができる頃

には、“人間として望ましい生き方”に気づいているといいます。

言葉では上のように書きましたが、“人間として望ましい生き方”の術を身につけることは大変難しく、時間もかかることだと思います。しかし、その術を身につけると、生きやすくなることは確かです。“人間として望ましい生き方”も環境や時期、年齢に寄って変更が必要な場合があります。しかし、同じ方法で見直しをすることにより、新たな、又より高度な“人間として望ましい生き方”を見つけられます。



《学校説明会を8月6日に開催！》

小学生及びその保護者対象の学校説明会を8月6日（土）にノバホールで開催します。10時30分からと13時からの2回同じ内容で実施します。申込はWebで行います。受付は、7月4日（月）9時からWebで行います。よろしくお願い致します。